

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第445号 平成24年11月29日

世界で最も健康な国

米国の情報サービス会社「ブルームバーグ」は、「世界で最も健康な国々」ランキングを発表していますが、それによると日本は世界第5位の健康度だそうです。

ランキングに当たっては、WHO等のデータを使い、年齢グループ別の死亡率、喫煙率、血中コレステロール値、大気汚染レベル等を組み合わせ、数値化して比較した結果だそうです（8月14日付北海道新聞から）。

ちなみに、ランキングは

- 1位 シンガポール
- 2位 イタリア
- 3位 オーストラリア
- 4位 スイス
- 5位 日本

となっています。

日本は世界一の長寿国ですから、健康度も世界一かと思っていましたら、日本は5番目だという事を聞いて、ちょっと意外な感じがしますが、長生きだけでは健康とはいえないという事なのでしょう。

シンガポールに行った事のある人から、シンガポールは緑も多く、清潔で、特にタバコには非常に厳しい所だと聞いた事がありますが、国全体で国民の健康に気を使っているとすれば、1位というのも分かります。

一方、フィリピン86位、パキスタン100位、インド103位、コンゴ143位、そして最下位はスワジランドの145位と、アジアやアフリカの発展途上国が軒並み低ランクに甘んじています。

指標に使われているのは、喫煙率や肥満度の外、大気汚染や水の安全性、子どもの栄養失調の状態、結核等の疾病対策など多岐にわたっていますが、国内外に紛争を抱え常に騒擾状態にある、あるいは、経済的に発展していても公害垂れ流しが放置されている、そうした国や地域の人々の健康度が低いのは当然といえます。

肥満な人が多い米国が33位というのはご愛嬌ですが、世界第2位の経済大国となった中国の健康度は55位という事ですから、経済力はともかく、環境問題を含め国内的にはまだまだ課題が多いという事だと思います。

それぞれの国の人々が健康な生活を営むためには、経済対策と同時に、医療や福祉対策、環境対策にもしっかりと取り組む必要があり、それはまた、社会の安定のためにも極めて重要です。

しかし、世界には、上述した発展途上国のように、貧困にあえぎ、慢性的な食料不足から抜けられず、安全な飲み水にも事欠く国が少なくありません。そうした国々の国民の健康度を高める上で、環境や医療・衛生などの面で最先端の技術を持っている日本が果たす役割は非常に大きいのではないのでしょうか。

日本は、経済力では中国の後塵を拝する事になりましたが、1億人以上もの人口を抱える大きな国が、国民の健康度世界5位というのは誇るべき事です。

その事を自信に変えて、世界の人々が健康で幸せになれるように、日本はもっともっと積極的に貢献していくべきです。(塾頭：吉田 洋一)